

令和五年度

国語

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があつたら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白は、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

（谷川俊太郎『詩を書く、なぜ私は詩をつくるか』二〇〇六年、思潮社、

93～96ページより作成）

注1 アノニム …… 匿名のもの。作者不詳の作品。

注2 大岡信 …… 詩人、評論家。

注3 シュールレアリスト …… 理性の支配を脱して、非合理的なものや、潜在意識の世界を好んで表現する芸術革新運動を実践する芸術家。

注4 自動記述 …… あらかじめ何を書くかをいっさい考えずに、できるだけ速く、自動的に文章を書き進めてゆく行為。

注5 公案 …… 禅宗で、修行者が悟りを開くため、研究課題として与えられる問題。

問一 — 部①と⑩の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 — 部アとエの指示語が指示している内容を答えなさい。

問三 — 部A「生まれた瞬間に文章はひとり立ちする」とはどういうことか、本文の言葉を
使いながらわかりやすく説明しなさい。

問四 — 部B「自分にふさわしくない文章、真似ごとの文章」とは、どんなものと考えられ
るか。本文の言葉を使ってわかりやすく説明しなさい。

問五 — には、漢字二字の言葉が入ります。文脈に合うように、本文にある漢字二字の言
葉を答えなさい。

問六 — 部C「文章は個人によって生まれながら、個人を超えたものを指し示す」とはどう
いうことか、わかりやすく説明しなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

桂のみこ^{注1}の御もとに、嘉種^{注2}が来たりけるを、母御息所^{注3}、聞きつけたまひて、門を^{かど}ささせたまうければ、夜ひと夜立ちわづらひて、かへるとて、「**B** かく聞こえたまへ」とて、門のはさま^{注4}よりいひいれける。

今宵^{こよひ}こそ涙の川に入るちどり なきてかへると君は知らずや
これもおなじみに、おなじ男、

長き夜をあかしの浦に焼く塩の けぶりは空に立ちやのぼらぬ^{注5}

かくてしのびつつあひたまひけるほどに、院^{注6}に八月十五夜^{注7}せられけるに、「まゐりたまへ」とありければ、まゐりたまふに、院にては**C** あふまじければ、「せめて今宵は**D** なまゐりたまひそ」とどめけり。されど、召しなりければ、えとどまらず、急ぎまゐりたまひければ、嘉種、

E 竹取がよよに泣きつつとどめけむ 君は君にと今宵しもゆく

(『大和物語』より)

注1 桂のみこ …… 宇多天皇の皇女。当時、皇女は原則として臣下とは結婚できない。

注2 嘉種 …… 源嘉種。

注3 母御息所 …… 宇多天皇の御息所、桂のみこの母。

注4 門のはさま …… 門のすきま。

注5 長き夜をく立ちやのぼらぬ …… (あなたに会えない) 長い夜を明かしましたが、明石の塩焼きの煙のように私が胸を焦がしている思いはあなたの方に立ちのぼってはいないでしょうか、きつと立ちのぼることでしょう、の意。

注6 院 …… 桂のみこの父、宇多天皇が退位後生活していた亭子院。

注7 八月十五夜 …… 八月十五夜の月見の宴。

問一 — 部A 「ささせたまうければ」中の音便を抜き出し、何音便か答えなさい。又、そのもとの形を書きなさい。

問二 — 部B 「かく聞こえたまへ」、C 「あふまじければ」、D 「なまゐりたまひそ」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問三 — 部から掛詞を抜き出し、何と何の掛詞かを例にならって説明しなさい。

例 あかし 「長き夜を明かし」と地名の「明石」との掛詞

問四 — 部Eの歌は『竹取物語』のかぐや姫が月の都に帰る場面を踏まえて詠まれたものです。二つの「君」の違いに注意して、現代語訳しなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

吳幾先嘗言、「参寥詩云、『五月臨平山下路、藕花
 無数滿汀洲。』五月非荷花盛時、不当云『無数滿汀
 洲。』」廉宣仲云、「此但取句美。若云『六月臨平山
 下路』、則不佳矣。」幾先云、「只是君記得熟、故以五
 月為勝。不然止云六月、亦豈不佳哉。」

(陸游『老学庵筆記』より)

注 吳幾先……宋代(九六〇～一二七九)の人。

参寥……宋代の僧、道潜のこと。参寥は道潜の別名。

臨平……現在の杭州市にある山。当時は山の東南に臨平湖があった。

藕花、荷花……ハスの花。

汀洲……中州(なかつ)

廉宣仲……廉布のこと。宋代の人。

問一 部「嘗」「若」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい(現代仮名遣いでもよい)。

問二 部Aを現代日本語に訳しなさい。このとき、情景が目には浮かぶように言葉を補って訳すこと。

問三 部Bを書き下し文にしなさい。漢字を使わず、すべてひらがなで書くこと(現代仮名遣いでもよい)。

問四 部Cはどのような意味か、もっとも適当なものを次のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 書きなれてしまった
- イ 覚えて慣れてしまった
- ウ じっくり書いた
- エ じっくり覚えた

問五 本文はハスの詩を話題としながら、人のどのような性質(傾向)を示そうとしているのか、わかりやすく説明しなさい。

